

郷土研通信



ナナカマド
アイヌ語
キキン (魔神を追い払うものになる木)
マウネ (屈斜路一湿布に使う掻き綿になる木)

発行者：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)
文章責任者：松橋 秀和

十月の例会

○近況報告

新学会員着任

十月二日付で山本悦子さんが着任されました。担当はふるさと歴史館とアイヌ民俗資料館です。活躍を期待します。

「永山峠」が復活



阿寒横断道路の難工事を成し遂げた永山在兼の功績を顕彰して完成当時双岳台に建立されていきましたが、時代が下るといっとはなく姿を消していました。阿寒摩周国立公園90周年を記念して再び建立されました。「永山峠」の呼称が復活したのです。

水越武作品展開催

世界的な自然写真家で町内在住の水越武さんの作品展「語りかけてくる風景」が十月二十九日から十一月二十四日までJCIイーフォートサロン(東京都)で開催されています。東京へ出かけることがありましたら鑑賞されてはいかがでしょうか。



臨時列車

おんべつ摩周号が来町



十月二十七日、同一行の皆さんが「ふるさと歴史館」を訪れてくれました。多くの人たちが目にしてくれることはうれしいことです。

北海道東トレイル開通

知床から釧路まで延長四一〇kmの開通を祝う式典が当会の荻野さんが担当されて開催されました。荻野さんは早速、全線を二十日間かけて全線を踏破しました。例会で後日談を語っていただきたいと思います。



勉強会

「松浦武四郎と私と」

テシカガよもやま話

講師 松浦武四郎記念館

名譽館長 高瀬英雄さん

高瀬さんご夫婦は、松浦武四郎の足跡を訪ね歩いて二十五年になるとのことです。ご夫婦は、武四郎が三日間足を止めたクツシヤロに毎年長期滞在してコタンや町内の人たちと交流を深

めていらつしゃいます。

勉強会では、これまでの旅でご自信が経験されたこと、武四郎の著作から読み取って感じたことなどをお話ししてくださいました。

旅は、現地に行つて、見て、そこに住む人たちと語り合わなければ本当の姿は知り得ないこと。アイヌの人たちのこの地で生きるための知識と知恵に学ぶところが多くあることなどをお話しくださいました。また、地域のことを勉強し語り継ぐ「会(集まり)」の存在には大切なものがある、と励ましの言葉をいただきました。

次回の例会

十一月二〇日

一九〇〇から

ふるさと歴史館

「勉強会」

仮題

「自然写真を撮り続けた

私の半生」

自然写真家 水越武さんを予定しています。

むかしむか史写真館

No.347

殖民軌道 弟子屈線

殖民軌道は、北海道の開拓事業を行うにあたって、市街地から遠い開拓地は道路が未整備なところも多く、また、火山灰地や湿地に作られた道路は降雨時

や融雪期にはぬかるんで通行に支障がでて集落が孤立することもあった。そのため道路維持の困難な地域で生産された農産物や開拓住民の生活物資の運搬や生活安定などを図るために敷設が計画された。

殖民軌道弟子屈線は、大正二年の関東大震災や昭和の大不況の犠牲になった人々が昭和三年から昭和七年にかけて虹別地区に三百人以上の入植者があり、

仁多の高台地区には三七戸入植

していた。しかし、昭和六、七年の冷害による大凶作で開拓農民の生活は苦しく、その救済を図るための現金収入を軌道敷設の土木工事に従事して得させる救済事業の目的もあり、軌道の敷設は、昭和七年冬に着工し昭和八年十一月に弟子屈・虹別間延長約二二kmが竣工した。

運行は、馬が貨車を牽く馬力線であることから弟子屈・虹別間を時速約七kmで三時間を要したが、虹別からは農産物が、

弟子屈からは生活物資が運ばれていた。

この時期の北海道開拓計画で入植した農民の悲惨な状況を「原野の詩人更科源藏」は彫刻家で詩人の高村光太郎に話し、高村は『彼は語る』という詩に

て発表している。しかし、虹別地区の住民は標茶市街との結びつきが強かったためか、徐々に利用が少

くなり、旧国鉄（JR北海道）標津線の西春別駅への新たな軌道延長が望まれた。この虹別線の工事のため、昭和十三年に弟子屈線の北虹別〜仁多山間の軌道が撤去し転用された。残った弟子屈〜仁多山間の軌道は戦時中にはほとんど使われなくなり、昭和二十四年二月に廃止された。

因みに、昭和二年の北海道庁による北海道第二期拓殖計画には屈斜路線（弟子屈〜屈斜路一〇マイル・約一六km）の記載があるが敷設されることはなかった。

これはこの時期、昭和六年に釧路・網走間の釧網本線（旧国鉄・JR北海道）の敷設が完了して、弟子屈周辺の主要な道路は永山在兼の手によってほぼ自動車道として整備されていたため、殖民軌道の必要性を感じていなかったためであろうか。

筆者は、『標茶町史』によって殖民軌道弟子屈線が存在していたことを知り踏査したことはあつたが、『弟子屈町史』にはその記述がなく、軌道に関する写真などの資料・史料は未見で、その存在を知らない。

殖民軌道弟子屈線の路線は現在、一部は農地や町道・道道・農道となり、残りの大半は王子緑化という会社の林道となつて

存在している。

参考文献

- 『標茶町史 通史第二巻』
- 『虹別五十年』『弟子屈町史』
- 『釧路・根室の簡易軌道（増補改訂版）』
- 『わが師 わが友』更科源藏著

別記

彼は語る

高村光太郎

彼は語る

北見の熊は荒いのですなあ

釧路の熊は何もせんのですなあ

かまはんげれや何もせんのですなあ

放牧の馬などを殺すのは

大い北見から来た熊ですなあ

彼は語る

地震で東京から逃げて来た人達に

何も出来ない高原をあてがった者があるので

すな

ジャガイモを十貫目買いたら

十貫目だけ取れたさうですなあ

草を刈るとあとが生えないといふ

薪にする木の一本もない土地で

幾家族も凍え死んださうですなあ

いゝ加減に開墾させて置いて

文句をつけて取り上げるさうですなあ

彼は語る

实地にはたらくのは、拓殖移住手引の

地図で見ると骨なすなあ

彼等にひっかかるのとやられるのですなあ

初出『銅鑪』（第15号昭和3年5月）

（草野心平編集発行人の詩雑誌）



弟子屈
摩周駅裏



虹別
虹別のコンビニ附近



虹別地区の住民は標茶市街との結びつきが強かったためか、徐々に利用が少

なり、旧国鉄（JR北海道）標津線の西春別駅への新たな軌道延長が望まれた。この虹別線の工事のため、昭和十三年に弟子屈線の北虹別〜仁多山間の軌道が撤去し転用された。残った弟子屈〜仁多山間の軌道は戦時中にはほとんど使われなくなり、昭和二十四年二月に廃止された。